

四国八十八ヶ所霊場巡拝

佛ぶつ
前ぜん
勤ごん
行ぎょう
次し
第だい

がつしよろいはい

合掌 礼拝

うやうや

頭 恭 しく 助 みほとけを 礼拝したてまつる

らいはい

せんぞみたまやまつりことば

先祖 靈屋 祭 辭

これ みたまや しずめまつ とおつ みおや みたま よよ みおやたち うからやから みたま みまえ つつし

是の御靈屋に鎮祭る 遠津御祖の御靈 代々の祖 達 親族家族の御靈の御前を慎み

うやまい いえ み まがことあら よ まもりひのまもり さきわえうづないたまひ うみ すえ うまご

敬ひ 家にも身にも枉事 在せず 夜の守 日守に 幸へ 宇豆那比給ひ 子孫の末の宇麻子

いた まで さかえしめたまい いのちなが みまうりうるわ つかいたてまつら たまえ のみもうすこと よし

に到る及に 令 栄給ひて 壽長く御奉 善しく仕 奉 しめ給へと 祈 申事の由を

たいら やすら きこしめせ かしこ かしこ まお

平けく安けく聞食と 畏み 畏みも白す

ほうのうきようきがんもん

奉納 経 祈願 文

おさめたてまつることば ごほんぞん こうそこうぼうだいし しょうぜんじん ちんしゆごほう そうじて にほんだいしょう しんぎ

奉 納 此所 御本尊 高祖 弘法 大師 諸天 善神 鎮守 護法 惣 日本 大小 神祇

なごにき がんしたてまつる

等 祈願 奉

てんかたいへい ばんみんけらく
天下泰平 萬民快樂
ないしほっかい びようどうりやく
乃至法界 平等利益
かないあんせん げんせあんのん
家内安全 現世安穩
ふほしちよう ろくしんけんぞく
父母師長 六親眷屬

開經偈

むじようじんじんみまよう ほう ひやくせんまんごう あいあう けんもん じゆじ
無上甚深微妙の法は 助 百千萬劫にも 遭ひ遇ふことかたし われいま見聞し 受持

え ねがわ によらい しんじつぎ げし
することを得たり 願くは如来の眞實義を解したてまつらん

むじようじんじんみまようほう ひやくせんまんごうなんそうごう がこんけんもんとくじゆじ がんげによらいしんじつぎ
一 遍 頭 無上甚深微妙法 助 百千萬劫難遭遇 我今見聞得受持 願解如来眞實義

懺悔文
さんげもん

むし とんじんち ほんのう み ぐち こころ つく
頭 無始よりこのかた 助 貧瞋痴の煩惱にまつわれて 身と口と意とに造るところの

こころ さんげ
もろもろのつみとがを みな 悉く懺悔したてまつる

がしやくしませうしよあくごう かいゆうむしとんじんち じゆうしんごいししよしよう いっさいがこんかいさんげ
一 遍 頭 我昔所造諸惡業 助 皆由無始貧瞋痴 從身語意之所生 一切我今皆懺悔

さんき

三歸

頭この身今生より みこんじょう 助 未来際をつくすまで みらいさい 深く三寶に歸依し ふかさんぼう たてまつらん きえ

一遍又は三遍 頭 弟子某甲 盡未来際 でしむこう じんみらいさい 助 歸依佛 歸依法 歸依僧 きえぶつ きえほう きえそう

さんきよう

三竟

頭この身今生より みこんじょう 助 未来際をつくすまで みらいさい ひたすら 三寶に歸依し 奉り さんぼう きえ たてまつ

としなえにかわるることなからん

一遍又は三遍 頭 弟子某甲 盡未来際 でしむこう じんみらいさい 助 歸依佛 竟 歸依法 竟 歸依僧 竟 きえぶつぎよう きえほうぎよう きえそうぎよう

じゆうぜんかい

十善戒

頭この身今生より みこんじょう 助 未来際をつくすまで みらいさい 十善のみをしえを守り じゆうぜん たてまつらん まも

一遍又は三遍 頭 弟子某甲 盡未来際 でしむこう じんみらいさい 助 不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語 不綺語 不惡口 ふせつじよう ぶちゆうとう ぶじやいん ふもうご ふきご ふあつく

不両舌 不瞋恚 不邪見 ふりようぜつ ふしんに ぶじやけん

ほうぼだいしん
發菩提心

びやくじょう しんじん おこ

むじょう ぼだい もと

ねがわ じた

ほとけ みち さと

白淨の信心を發して 無上の菩提を求む 願くは自他もろともに 佛の道を悟りて

しょうじ うみ わた

げだつ ひがん いた

生死の海を渡りすみやかに解脱の彼岸に到らん

三遍 おんぼうじ したた ぼだはだやみ

さんまやかい

三摩邪戒

こ

によらいだいひ ほんせい あお

ふに じょうしん あんじゅう

われらはみほとけの子なり ひとえに如来大悲の本誓を仰いで 不二の淨心に安住し

ぼさつりた ぎょうこう はげ みほとけ いのち そぞぞく

菩薩利他の行業を励みて法身の慧命を相続したてまつらん

三遍 おんさんまや さとぼん

はんにやしんぎょう

般若心經

はんにやしんぎょう

ぶつきょう せいよう みつぞう かんじん

じゅじこうく

く ぬ

頭般若心經は助 佛敎の精要 蜜藏の肝心なり このゆえに誦持講供すれば苦を抜き

らつく あた しゅじゅうしゆい

どう え つう おこ

せけん やみ て

みょうとう

樂を興へ修習思惟すれば道を得 通を起す まことにこれ世間の闇を照らす 明燈にし

しょうし うみ わた いかだ

ふか さんぎょう ししん ぶくじゆ

て生死の海を渡す船筏なり 深く鑽仰し至心に讀誦したてまつる

頭

仏説摩訶般若波羅蜜多心經

助

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時

照見五蘊皆空

度一切苦厄舍利子色不異空空不異色色即是空空

即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生

不滅不垢不淨不增不減是故空中無色無受想行識

無眼耳鼻舌身意無色声香味觸法無眼界乃至無意

識界無無明亦無無明尽乃至無老死亦無老死尽無苦

集滅道じゅうめつどう 無智亦無得以無所得故菩提薩埵依般若波むちやくむとくいむしよとこほだいさたえほんにやは

羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒らみったこしんむげむむげこむうくふおんりいつさいてんどう

夢想むそう 究竟涅槃三世諸仏依般若波羅蜜多故得阿耨くぎょうねはんさんぜしよぶつえほんにやはらみったことくあ

多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多たらさんみやくさんぼだいこちはんにやはらみった 是大神呪是ぜだいじんしゆぜだい

明呪是無上呪是無等等呪みょうしゆぜむじょうしゆぜむとうどうしゆ 能除一切苦真實不虛故のうじよいつさいくしんじつふこ

說般若波羅蜜多せつほんにやはらみった 呪即說呪日羯諦羯諦波羅羯諦しゆそくせつしゆわつぎやていぎやていはらぎやてい

羅僧羯諦菩提薩婆訶らそうぎやていぼうちそわか 般若心經ほんにやしんぎよう

ほんぞん しんごん

ご本尊ご真言 三遍

不動明王 のうまくさーまんだーばざらだん せんだ まかろしやだ そわたや うん たらた かんまん

釈迦如来 のうまく さーまんだ ぼたなんぼく 文殊菩薩 おん あらはしや のう

普賢菩薩 おん さんまや さとぼん 地藏菩薩 おん かかかび さんまえい そわか

弥勒菩薩 おん まいたれいや そわか 薬師如来 おん ころころ せんたり まとうぎ そわか

観音菩薩 おん ありりきや そわか 勢至菩薩 おん さんさん さんさく そわか

阿弥陀如来 おん あみりた ていせい からうん 阿闍如来 おん あきしゆびや うん

大日如来 おん あびらうんけん ばざらだ とぼん 阿闍如来 おん あきしゆびや うん

虚空蔵菩薩 のうぼう あきやしゃきやらばや おん あり きやまり ぼり そわか 以上 十三仏ご真言

十一面観音 おん まか きやろにきや そわか 十一面千手観音 おん ばざらたらま きりく そわか

大通智勝仏(五十五番) なむ だいつう ちしようぶつ 毘沙門天(六十三番) おん べいしらまんたや そわか

聖観音(六十九・八十三・八十五・八十七番) おん ありりきや そわか

馬頭観音(七十番) おん あみりとどほんば うんぼた そわか

こうみようしんごん

光明真言

こうみようしんごん だいにちふもん まんどく にじゅうさんじ あつ むな

頭となえたてまつる光明真言は 助 大日普門の萬徳を二十三字に攝めたり おのれを空

ゆ いっしん

しうして 一心にとなえたてまつれば みほとけの光明にてらされて 三妄の霧おのずか

は じようしん たまあきり しんによ つき

ら晴れ 淨心の玉明かにして 眞如の月まどかならん

三遍 頭 帰命 不空 光明遍照 助 大印相 摩尼宝珠 蓮華 焰光 転 大誓願

ごほうごう なむだいしへんじょうこんごう

御寶號 三遍又は七遍 南無大師遍照金剛

せんぞくようもん えごう せんぞだいたいつさいしゅうりよう

先祖供養文 三遍 廻向 先祖代々一切精靈

しんさいきがんもん しんじんあんのん ふつごうじょうまん えごうしんさい ぶつこのしゅうりよう

震災祈願文 一遍 心身安穩 復興成満 廻向震災 物故之精靈

えごうもん ねがわ くどく いっさい およ しゅじょう

廻向文 頭 願くは 助 この功德をもつて あまねく一切に及ぼし われらと衆生とみな

ともに佛道を成ぜん

一遍頭 願以此功德 助 普及於一切 我等與衆生 皆共成佛道

きがん がつしやう

祈願、合掌 ありがとうございます

第一番 靈山寺

釈迦如来

なうまく さんまんだ ぼだなんぼく

第二番 極楽寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第三番 金泉寺

釈迦如来

なうまく さんまんだ ぼだなんぼく

第四番 大日寺

大日如来

おん あびらうんけん ばざらだとぼん

第五番 地藏寺

地藏菩薩

おん かかかび さんまえい そわか

第六番 安楽寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第七番 十楽寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第八番 熊谷寺

千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第九番 法輪寺

釈迦如来

なうまく さんまんだ ぼだなんぼく

第十番 切幡寺

千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第十一番 藤井寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第十二番 焼山寺

虚空蔵菩薩

なうぼう あきやしや きやらばや やん ありきや まりぼり そわか

第十三番 大日寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第十四番 常楽寺

弥勒菩薩

おん まい たれいや そわか

第十五番 国分寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第十六番 観音寺

千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第十七番 井戸寺

七仏薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第十八番 恩山寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第十九番 立江寺

地藏菩薩

おん かかかび さんまえい そわか

第二十番 鶴林寺

地藏大菩薩

おん かかかび さんまえい そわか

第二一番 大龍寺

虚空蔵菩薩

なうぼう あきやしや きやらばや やん ありきや まりぼり そわか

第二二番 平等寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第二三番 薬王寺

厄除薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第二四番 最御崎寺

虚空藏菩薩

なうぼう あきやしや きやらばや やん ありきや まりぼり そわか

第二五番 津照寺

楯取地藏菩薩

おん かかかび さんまえい そわか

第二六番 金剛頂寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第二七番 神峰寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第二八番 大日寺

大日如来

おん あびらうんけん ばざらたとばん

第二九番 国分寺

千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第三〇番 善楽寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第三一番 竹林寺

文殊菩薩

おん あらはしや なう

第三二番 禅師峰寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第三三番 雪溪寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第三四番 種間寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第三五番 清滝寺

厄除薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第三六番 青竜寺

波切不動明王

なうまくさんだ ばざらだん せんだ まかろしやだ

第三七番 岩本寺

不動明王

そわたや うん たらた かんまん まかろしやだ

第三八番 金剛福寺

三面千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第三九番 延光寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第四〇番 観自在寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第四一番 竜光寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第四二番 仏木寺

大日如来

おん あびらうんけん ばざらたとばん

第四三番 明石寺

千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第四四番 大宝寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第四五番 岩屋寺

不動明王

なうまくさんだ ばざらだん せんだ まかろしやだ

第四六番 浄瑠璃寺

薬師如来

そわたや うん たらた かんまん
おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第四七番 八坂寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第四八番 西林寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第四九番 浄土寺

釈迦如来

なうまく さんまんだ ぼだなんばく

第五〇番 繁多寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第五一番 石手寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第五二番 太山寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第五三番 円明寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第五四番 延命寺

不動明王

なうまくさんだ ばざらだん せんだ まかろしやだ

そわたや うん たらた かんまん

第五五番 南光坊

大通智勝仏

なむ だいつう ちしようぶつ

第五六番 泰山寺

地藏菩薩

おん かかかび さんまえい そわか

第五七番 栄福寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第五八番 仙遊寺

千手観音

おん ばざらたらま きりく そわか

第五九番 国分寺

薬師如来

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第六〇番 横峰寺

大日如来

おん あびらうんけん ばざらだとぼん

第六一番 香園寺

大日如来

おん あびらうんけん ばざらだとぼん

第六二番 宝寿寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第六三番 吉祥寺

毘沙門天

おん べいしらまんだや そわか

第六四番 前神寺

阿弥陀如来

おん あみりた ていせいから うん

第六五番 三角寺

十一面観音

おん まか きやろにきや そわか

第 六 六 番	雲 辺 寺	千手観音	おん ばざらたらま きりく そわか
第 六 七 番	大 興 寺	薬師如来	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
第 六 八 番	神 惠 院	阿弥陀如来	おん あみりた ていせいから うん
第 六 九 番	観 音 寺	聖観音	おん ありりきや そわか
第 七 〇 番	本 山 寺	馬頭観音	おん あみりとどほんば うんはった そわか
第 七 一 番	弥 谷 寺	千手観音	おん ばざらたらま きりく そわか
第 七 二 番	曼 荼 羅 寺	大日如来	おん あびらうんけん ばざらだとぼん
第 七 三 番	出 釈 迦 寺	釈迦如来	なうまく さんまんだ ぼだなんばく
第 七 四 番	甲 山 寺	薬師如来	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
第 七 五 番	善 通 寺	薬師如来	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
第 七 六 番	金 倉 寺	薬師如来	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
第 七 七 番	道 隆 寺	薬師如来	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
第 七 八 番	郷 照 寺	阿弥陀如来	おん あみりた ていせいから うん
第 七 九 番	天 皇 寺	十一面観音	おん まか きやろにきや そわか
第 八 〇 番	国 分 寺	十一面千手観音	おん ばざらたらま きりく そわか
第 八 一 番	白 峰 寺	千手観音	おん ばざらたらま きりく そわか
第 八 二 番	根 香 寺	千手千顔観音	おん ばざらたらま きりく そわか
第 八 三 番	一 宮 寺	聖観音	おん ありりきや そわか
第 八 四 番	屋 島 寺	十一面千手観音	おん ばざらたらま きりく そわか
第 八 五 番	八 栗 寺	聖観音	おん ありりきや そわか
第 八 六 番	志 度 寺	十一面観音	おん まか きやろにきや そわか
第 八 七 番	長 尾 寺	聖観音	おん ありりきや そわか
第 八 八 番	大 窪 寺	薬師如来	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

しんぎようほうざんもん

心経奉讚文

そもそもほんにやしんぎよう

もう

たてまつ

おんきよう

てんだいろくじゆうかん

あごんろくじゆうかん

けごんきようほう

抑 般若心経と申し奉る御経は、天台六十卷、阿含六十卷、華嚴経方

どうほんにやほけきようとう

いつさいはちまんしせんよかん

なか

えら いだ

とうと

おんきよう

等般若法華経等、一切八万四千餘卷の中より選み出されたる尊き御経なり、

もじ かず わずか

にひやくろくじゆうよもじ

しんぜん

たから

おんきよう

ぶつぜん

文字の数は僅かに二百六十余文字なれども、神前にては宝の御経、仏前に

はな

おんきよう

ま

にんげん

ため

きねんきとう

おんきよう

こえたかだか

よみあげたてまつ

ては花の御経、況して人間の為には祈念祈禱の御経なれば、声高々と読上奉

かみ

ほんてんたいしやくしも

けんろうぢしん

いた

かんのう

うたが

つつし

れば、上は梵天帝釈、下は堅牢地神に至るまで感応ましますこと疑ひなし、謹

んで読誦し奉る

んで読誦し奉る

じきじりやくさほう

食時略作法

食前しよへぜんのことば

一滴いつてきの水みずにも大おおいなる恵めぐみがあり、一粒ひとつぶのお米こめにも萬民ばんみんの努力どりよくがこもっております。
私わたしが生いきていることはこれらおんけいの恩恵おんけいによるものです。いただきます。

食後しごのことば

ごちそうさまでした。

平成二十九年九月二日

小曾根 眞喜雄

十三仏ご真言

不動明王	のうまくさーまんだー	ばざらだん	せんだ	まかろしやだ	そわたや	うん	たらた	かんまん
釈迦如来	のうまく	さーまんだ	ぼだなんぼく					
文殊菩薩	おん	あらはしや	のう					
普賢菩薩	おん	さんまや	さとぼん					
地藏菩薩	おん	かかかび	さんまえい	そわか				
弥勒菩薩	おん	まい	たれいや	そわか				
薬師如来	おん	ころころ	せんだり	まとうぎ	そわか			
観音菩薩	おん	あろりきや	そわか					
勢至菩薩	おん	さんざん	ざんさく	そわか				
阿弥陀如来	おん	あみりた	ていせい	からうん				
阿閼如来	おん	あきしゅびや	うん					
大日如来	おん	あびらうんけん	ばざらだとぼん					
虚空蔵菩薩	のうぼう	あきやしやきゃらぼや	おん	あり	きやまり	ぼり	そわか	

